

平成31年4月3日

下松市笠戸島の一時孤立を教訓

災害時における海上交通の有効活用

～「とりまとめの概要」と「住民アンケートの結果」を公表～

平成30年7月に発生した西日本豪雨では、山口県の東部地区でも多くの場所が被害を受けました。

下松市笠戸島においては、島内にある唯一の県道が複数箇所で崩落し、笠戸島南部の多くの住民や企業が約20日間にわたり孤立をしました。

このため、下松市では臨時に連絡船を運航させる措置をとり、住民の移動や物流の確保を図りました。



「平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立に関する調査検討会」では、関係機関が当時の対応について振り返り、課題を抽出し対応策についての検討を行い、さらに、孤立した笠戸住民や企業にも協力を得て、実態把握のアンケート調査も実施しました。

3月25日の最終検討会では、今後の防災・減災対策に生かすため、関係機関との情報共有や連携の必要性、海上交通の有効的な活用などについて、下記のとおりとりまとめましたので公表します。

記

1. とりまとめ概要版
2. 「平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立」に関するアンケート調査の結果について（速報）
《大島商船高等専門学校 准教授 行平真也 監修》

○「平成30年7月西日本豪雨災害での笠戸島住民孤立に関する調査検討会」とは、山口大学山本教授、大島商船高専行平准教授、下松市、同市笠戸島公民館、同深浦公民館、株式会社新笠戸ドック、山口県旅客船協会、周南土木建築事務所、周南港湾管理事務所、中国地方整備局山口河川国道事務所、下関地方气象台、徳山海上保安部、山口運輸支局徳山庁舎の各委員で構成し、今回の災害で行政機関等の対応を振り返り、課題を抽出し対応策の検討を行い、今後の防災対策に生かすことを目的とした検討会です。

【問い合わせ先】

検討会事務局（中国運輸局 山口運輸支局 徳山庁舎内）

担当：坂田・三好 TEL 0834-21-0180 Fax 0834-32-4094